

《担当者名》百々 尚美 (ndodo@hoku-iryo-u.ac.jp)

### 【概要】

感情と心理的側面との関連性を理解することを目指し、主要な感情研究と理論に関する専門的知識を身につける科目である。

### 【学修目標】

感情心理学に関する諸理論に関する基礎知識を習得する。

- 感情の概念を理解する。
- 感情の生物学的基盤を理解する。
- 感情の理論を理解する。
- 感情の機能を理解する。
- 感情の健康に及ぼす働きを理解する。

### 【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	感情の定義と用語	感情の定義、基本的概念について学習する。	百々尚美
2~5	感情の理論(1) 古典的理論	末梢起源説、中枢起源説、二要因説、顔面フィードバック仮説について学習する。	百々尚美
6~9	感情の理論(2) 基本的感情説と次元節	エクマン、プルチック、ラッセル、フライダ、フレドリクソンについて学習する。	百々尚美
10~13	感情の生物学的基盤	視床下部、扁桃体、交感神経と副交感神経、HPA系、恐怖条件づけの脳機構について学習する。	百々尚美
14	感情の機能	感情の作用の研究、感情現象の解明について学習する。	百々尚美
15	感情と健康	心身の健康に大切な感情の働きについて学習する。	百々尚美

### 【授業実施形態】

面接授業と遠隔授業の併用

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

### 【評価方法】

授業内で行うGoogle Formを用いた小テストの結果（20%）、および定期試験の結果（80%）を総合して評価する

### 【教科書】

適宜プリントを配布する。

### 【参考書】

- 『感情心理学』朝倉書房 2007年
- 『感情と心理学 発達・生理・認知・社会・臨床の接点と新展開』北大路書房 2002年
- 『感情心理学・入門』有斐閣 2010年

### 【備考】

授業資料の配布はGoogle Classroomを利用して学習課題を呈示する。

授業内にGoogle Formを用いて小テストを行う予定である。出席の確認は回収された小テストによってなされる。欠席回数については各自で責任を持って管理すること(欠席回数についての問い合わせには原則応じない)。

### 【学修の準備】

シラバスの内容を参考に、参考書および講義資料を熟読し、講義内容を予習すること（30分）  
講義内容を見直し、不明な点は関連書籍をもとに確認し、理解を深めておくこと（60分）

### 【ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）との関連】

DP1. 心の問題にかかわる職業人として必要な幅広い教養と専門的知識を修得している。  
DP3. 社会の様々な分野において、心の問題を評価し、それを適切に判断し援助できる基礎的技能を修得している。  
上記、心理科学部ディプロマ・ポリシーに適合している。

### 【実務経験】

公認心理師

**【実務経験を活かした教育内容】**

公認心理師としての医療・福祉・教育での実務経験を活かし、臨床・研究の成果を反映させた講義内容となっている。